

大学生の学業先延ばしと達成動機 —セルフコントロールの媒介作用—

○朱力行*, 倉元直樹**

東北大学教育学研究科*, 東北大学高度教養教育・学生支援機構**

1. 問題と目的

大学生の学業先延ばしは、世界的に広く見られる現象になっている。Ellis (1977) の研究によると、学業先延ばしが広く見られて、20~30%の大学生では長期的または深刻な学習課題先延ばしの現象が発生している、さらに、この割合が増加しつつあると指摘している。(Kachgal, 2001) 多くの研究で、先延ばしと大学生の不安、ストレスの間に有意な正の相関があることが報告されている。(Zuo, 2010) 先延ばしは非常に広く普及しており、その影響は大きいであるため、大学生の学業先延ばし原因について研究することは必要がある。

多くの研究者は、学業先延ばしの原因は動機づけと指摘している。(e.g.竹村, 2018) Schouwenburg (1995) の研究により、成功を求める動機と失敗を回避する動機、その2種類の達成動機が先延ばしに与える影響も異なることが示されている。まだ、セルフコントロールは、先延ばしと負の相関があることが多くの研究で明らかにされている。(Koushki, 2014) 自制力が高いほど、成功への期待現状を変えようとする意欲が高まり、先延ばし行動が起こりにくくなることが示唆される。(Baumeister, 2018)

前述を踏まえて、本研究の目的は、達成動機、学業先延ばし、原因帰属方法の相互関係を明らかにすることを試みる。ここでは、達成動機を独立変数、先延ばしを従属変数、セルフコントロールを媒介変数とした媒介モデルで仮定する。

2. 方法

2.1 調査方法

2022年4~6月に中国広東省内の大学生、大学院生250名を対象に(男性70名、女性180名)、ウェブにおける質問紙調査を行った。QRコードが掲載された「研究協力をお願い」を調査対象者に配布した。調査サイトへのアクセスは任意とした。

2.2 調査内容

調査票のうち本研究で分析に用いた変数は「性別」「学年」「学業先延ばし」「達成動機」と「セルフコントロール」である。

学業先延ばし尺度は、Aitken によって作成された23項目からなる課題先延ばし行動傾向測定尺度をもとに、藤田(2005)が翻訳して13項目にまとめたもののうち、課題先延ばし因子9項目を抜粋したものである。達成動機尺度は、Lang によって、AMS スケールに基づく改訂された、達成欲求と失敗恐怖の2つの下位尺を含む10項目の達成動機尺度。光浪(2010)の日本語翻訳版を使用する。セルフコントロール尺度は、Tangney によって開発された Self-Control Scale 尺度の短縮版。日本では、尾崎(2016)が Brief Self-Control Scale を日本語に翻訳した。上記の三つの尺度はすべて、東北大学大学院教育学研究科の中国人博士によって中国語にバックトランスレーションされた。

3. 結果

質問項目に対する回答が全て同一である、回答

時間短すぎるなど調査に非協力的と判断され調査参加者を外し、239名を分析対象として分析を行った。

3.1 各変数の相関関係

調査結果を通じて、各質問紙について信頼性分析を行った。そして、先延ばし尺度、達成動機尺度（達成欲求、失敗恐怖を含む）、セルフコントロール尺度の総合得点を求めた。また、各総合得点についてピアソン相関分析を行い、相関行列を作成した。3つの尺度はいずれも良好な内部整合性を有している。そして、先延ばしは、セルフコントロール、失敗恐怖、達成欲求と有意に関連している。特に、先延ばしは達成欲求、セルフコントロールと負の相関があり、失敗恐怖と正の相関がある。また、達成欲求は、セルフコントロールと正の相関があり、失敗恐怖と負の相関がある。

表1 尺度の相関関係とクロンバックα係数

	先延ばし	セルフコン	失敗恐怖	達成欲求
先延ばし	0.854			
セルフコン	-0.694**	0.865		
失敗恐怖	0.225**	-0.416**	0.814	
達成欲求	-0.503**	0.392**	-0.128*	0.865

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

3.2 媒介作用分析

達成欲求とセルフコントロールの線形回帰 ($\beta = 0.726^{**}$, $SD = 0.111$, $t = 6.559$)、達成欲求と先延ばしの線形回帰 ($\beta = -0.865^{**}$, $SD = 0.096$, $t = -8.969$)、達成欲求とセルフコントロールと先延ばしの重回帰分析 (達成欲求: $\beta = -0.470^{**}$, $SD = 0.082$, $t = -5.728$) (セルフコントロール:

$\beta = -0.544^{**}$, $SD = 0.044$, $t = -12.283$) による、三つの変数は: 達成欲求→セルフコントロール→先延ばしの媒介作用効果が有意であることを確かめる。すなわち、「達成欲求不足の人が、セルフコントロールできない。セルフコントロールできない人が、先延ばしにする」というパスである。

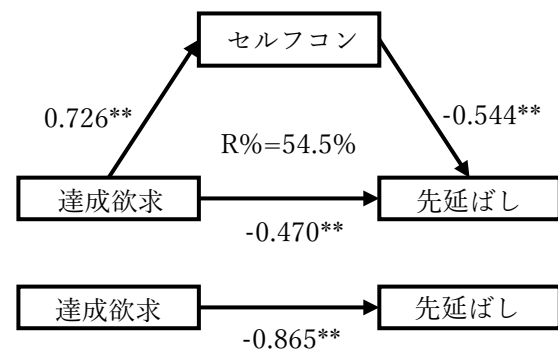


図1 達成欲求、セルフコントロール、先延ばしの媒介モデル分析結果 (** $p < 0.01$)

4. 考察

本研究は、大学生の学業先延ばしの発生メカニズムを明らかにするため、達成動機、セルフコントロールと先延ばし三者の媒介モデルを仮設して、質問紙調査の結果から検討した。その結果、達成欲求→セルフコントロール→先延ばしの媒介モデルが成立した。相関行列と回帰分析を用いると、達成欲求が高い人ほど失敗を恐れず、自制心が強く、その結果、先延ばしが少ないという傾向があることがわかる。逆に、もし大学生が成功を願わなければ、失敗を恐れ、自制力を働けない、当然ながら先延ばしする。したがって、先延ばしをコントロールするためには、時間管理などのコントロール方法を強化するだけでなく、大学生のモチベーションから始める必要がある。

「謝辞」

本研究は JSPS 科研費 JP20K20421 の助成を受けた研究成果の一部である。